

Rainbow

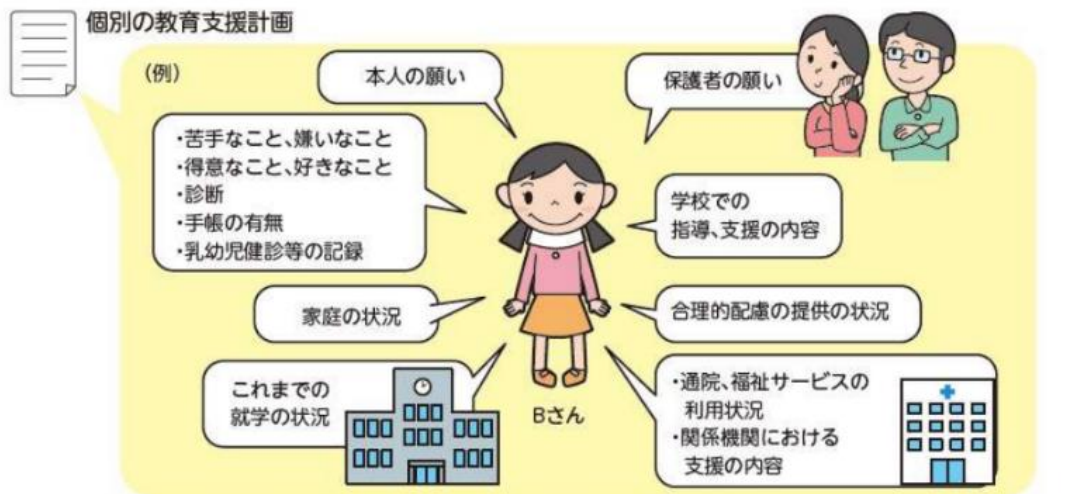
～六中ユニバーサルデザイン～



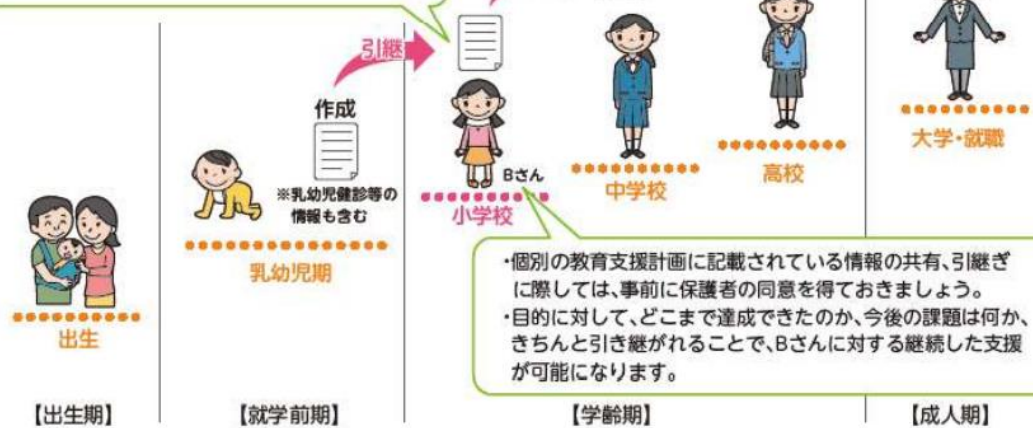
3月も中旬を過ぎ、3年生はいよいよ卒業式を迎え、それぞれの進路先へと向かいます。今回の通信では、小学校から中学校、中学校から高等学校等へ進学する際の引継ぎに関する情報をお伝えしたいと思います。裏面には「誰一人取り残さない多様な高等教育」シンポジウムについて紹介します。

個別の教育支援計画

「個別の教育支援計画」(東京都では学校生活支援シートとも言われています)とは本人・保護者の願い、現在の状況、支援の内容、生育歴、相談歴など生徒に関する事項について、本人・保護者も含めた関係者で情報を共有するためのツールとされています。お子様のこれからの進級・進学の際も支援や配慮の提供を受ける際にも利用できる大切なものです。



【個別の教育支援計画】
・引継ぎ内容を踏まえて作成します。
・作成して終わりではなく、子供の状況等を踏まえて適宜見直しを行います。(PDCAサイクル)



〈文部科学省web サイトより〉

「誰一人取り残さない多様な高等学校教育」へ

桜美林大学で小学校・中学校から高等学校へと学びの「バトン」をつなぐために都立高等学校4校の副校長が特色ある教育課程や教育活動について語るシンポジウムがありましたので、概要をお伝えします。

〈エンカレッジスクール〉(秋留台)

特徴：現在、都内に6校。学力検査がなく、作文や小論文、面接、調査書は必要。全日制で行事や部活が盛ん。「学び直し」は「学力向上」ではない。小中学校の「学び直し」から高校レベルの内容につなぐ難しさあり。成績は意欲で評価するので、自信がもてるようにはなる。今後、学校によっては、定期テスト導入、評価割合の変更も検討されている。

〈チャレンジスクール〉(世田谷泉)

特徴：学力検査がなく、作文や小論文、面接、調査書は不要。小中学校で不登校の経験や高等学校での中途退学の経験。不登校8割、支援や配慮を要する4割で増加している。実際、登校が安定するのは6～7割。登校できる生徒はほぼ全員卒業。令和7年に立川地区にチャレンジスクール新規開校。授業内での合理的配慮はニーズを教員が聞き取り、柔軟に対応。

支援体制：①スクールカウンセラー (SC)

②ユースソーシャルワーカー (YSW) ※都立高校に配置

③校内寺小屋 (学習支援)

④校内別室指導 (学習支援) ※R5 開始、教室に入れない生徒の支援

〈単位制・定時制・通信制〉(新宿山吹)

特徴：「無学年制」採用、定時制は1部、2部、3部、4部の4部制。情報科も設置されている。通信制ではレポート、夏季休業中等のスクーリング、Webでの授業も試験的に開始。通信制の生徒は増加傾向。

〈普通科・単位制・定時制・通信制〉(砂川)

特徴：他の定時制(4時間授業)と異なり、6時間授業で3年間の卒業を目指す。1時間目から12時間目まで授業が設定。入試は学力検査で実施。全員が制服着用。通信制は自宅での学習が基本。

〈高等学校での支援〉

「都立高校における発達障害教育の手引き～誰一人取り残されない学校づくり～」(R6.2 東京都教育委員会)の手引きが完成され、支援体制が強化されています。校内別室での指導や授業以外での単位取得ができるようです。

- ・校内支援体制づくり (不登校対応、別室対応、転学支援等)
- ・合理的配慮・ユニバーサルデザイン
- ・通級による指導・コミュニケーションアシスト講座 (教育課程外・学校外)
- ・都立発達障害教育推進エリアネットワーク (都立特別支援学校と連携)



☆お子様のことでご心配なこと等ありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

第六中学校 校内通級教室主任 (特別支援教育コーディネーター) 尾本 保明

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□